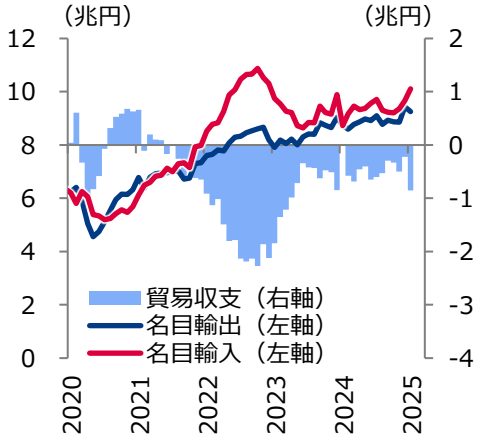
日本

貿易統計（2025年1月）

実質輸出は底堅さを維持、先行きは米国の追加関税の影響に懸念

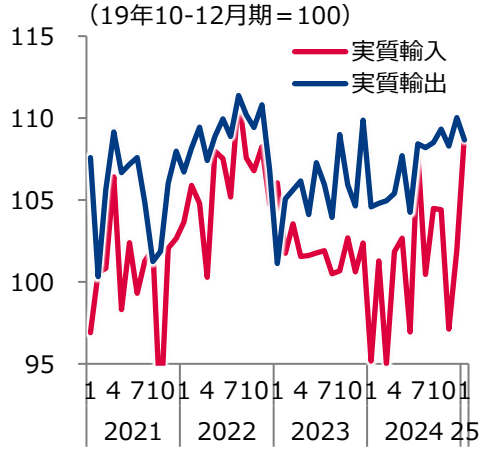
政策・経済センター
北川諒
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



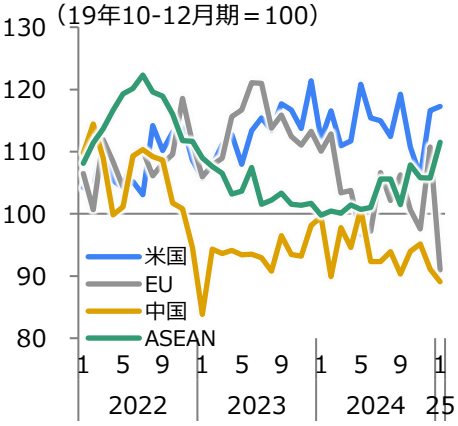
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出入



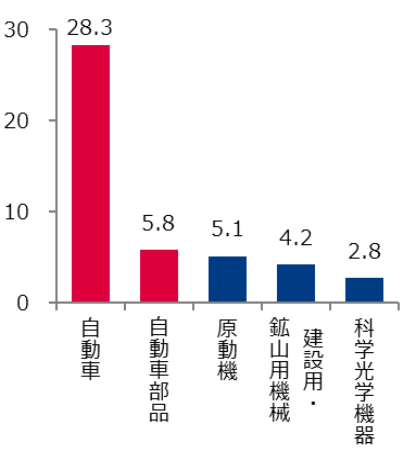
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出（地域別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 日本の米国向け輸出の上位５品目



注：2024年の値。品目は概況品コード5桁分類による。
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年1月の貿易収支（季調値）は、▲8,566億円の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比▲2.0%）が減少した一方、名目輸入（同+4.7%）が増加し、貿易赤字幅は拡大した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比▲1.2%と2カ月ぶりに減少した（図表2）。実質輸入は、同+6.9%と2カ月連続で増加した。
- 実質輸出について地域別にみると、米国向け（同+0.6%）、ASEAN向け（同+5.4%）は堅調な内需を背景に増加した。中国向け（同▲2.2%）は春節休暇時期のズレにより下押しされており、EU向け（同▲17.9%）は前月の反動で大幅に減少した（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、直近で拡大したものの、春節時期のズレや輸入の反動増など一時的要因の面が大きい。先行きは、円安是正に伴い赤字縮小に向かうだろう。
- 先行きの実質輸出について、横ばい圏での推移を見込む。海外経済の底堅さが下支えとなるが、①米国による世界各国への追加関税や②政策不確実性の高まり（世界の設備投資需要を抑制するおそれ）が下押し要因となる。
- ①について、トランプ政権による追加関税の対象国・品目・税率次第では、米国向け輸出が下押しされる可能性がある。政策の影響が世界経済減速をもたらす場合には、輸出の下押し幅も一段と広がる恐れがある。相互関税には不透明な部分が多く、自動車・半導体・医薬品などの追加関税も懸念事項だ。
- 相互関税について、日本の対米輸入関税率（5%）と米国の対日輸入関税率（2%）の差は比較的小さいが、非関税障壁も考慮される可能性がある。また、自動車等への追加関税も検討されている。自動車・同部品は日本の米国向け輸出の約3割を占めており（図表4）、輸出下押し圧力が強まれば、日本経済への悪影響が懸念される。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.